

令和2年度学校自己評価システムシート (県立鳩ヶ谷高等学校)

目指す学校像	総合制高校として3学科の特色を生かし、生徒一人ひとりが主体的に学ぶ力を育成する学校
--------	---

重点目標	1 教員の授業力向上と生徒が実感できる確かな学力を育成する。 2 生徒一人ひとりの将来を見据えた進路指導を推進する。 3 メリハリのある生徒指導を継続し、生徒の自主性を育成する。 4 リーダー層の育成を図り、保護者・地域の信頼に応える学校づくりを更に充実させる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	学習環境の基盤は整備されたので、生徒が積極的に授業参加するような活力ある授業実践が望まれる。教員の指導力の向上と生徒の実態に即した授業展開の工夫をしながら、学力の向上を図る必要がある。	生徒が実感できる学力の向上	①校内の授業公開の開催(年2回)や生徒の授業アンケートの実施をとおして、授業改善を図る。 ②外部模試を実施し、相対的な学力の伸長を図る。 ③英検等各種資格取得を目指し学習意欲を高める。 ④グローバル教育を推進し、国際理解を深め、外向き志向の人材を育成する。	①他の教員の授業参観2回以上 ①授業に満足している75%以上(生徒アンケート)、80%以上(保護者アンケート) ①授業に集中している85%以上(生徒アンケート) ①授業改善に取り組んでいる70%以上(保護者アンケート) ②外部模試のデータの蓄積・分析して指導に活用できたか。外部模試1.2年3回以上実施。 ③各種検定合格者が増加したか。また、上級資格に挑戦した生徒がいたか。 ④グローバル教育を推進する取組が増加したか			
2	社会の変化に対応しながら、ワタシ上の進路実現に挑戦する意欲を高め、生徒一人ひとりの将来を見据えた進路指導を推進する必要がある。特に四年制大学などの進学先の情報収集と研究を行い、保護者の進路意識も向上させ、一般受験者の増加が課題である。	生徒一人ひとりの将来を見据えた進路指導の推進	①進路に対する意識向上を図り、進路決定率の増加を図る。 ②補習体制を工夫し、生徒が前向きに一般受験に挑戦する気運を高める。 ③進路キャリアパスや教員研修を実施し、併せて、保護者への啓発活動を積極的に行う。 ④定期考査前以外でも家庭学習する生徒を育成する。	①進路決定率100%、就職内定率100% ①進路指導に満足している80%以上(保護者アンケート) ②一般受験、公募推薦受験者数20名以上(大学) ③外部講師を招いての教員研修会の実施 ③保護者と連携した有効な情報提供 ④試験期間、テスト前以外1時間以上家庭学習している生徒30%以上(生徒アンケート)			
3	継続的な登校指導、身だしなみ指導により、大きな成果がでている。より基本的な生活習慣を確立させ、生徒が自ら考えて行動できるよう組織的に生徒指導に取り組む必要がある。遅刻撲滅と挨拶励行については、引き続き取り組む。	メリハリのある生徒指導の継続	①”ならぬことはならぬ”指導を継続し、基本的な生活習慣の定着を組織的に取り組む。 ②日々の学校活動において、努力を惜しまず学校の模範となる生徒を表彰する。 ③アルバイトの許可制を適切に運用し、部活動に目を向けさせ、他校との交流などによって、刺激を受けながら部活動の活性化を図る。	①登校指導、身だしなみ指導を継続し遅刻件数年間1人1回未満。また、自ら挨拶する生徒の割合75%以上 ①身だしなみや言葉遣い挨拶に取り組んでいる100%(生徒アンケート)、身だしなみ指導・遅刻指導に満足している90%以上(保護者アンケート) ①学校生活に満足している90%以上(生徒アンケート) ②校内表彰5名以上 ③部活動加入率85%以上 ③部活動は満足している80%以上(生徒アンケート) ③他高校や中学校との交流回数の増加。部活動の活性化のための取組。			
4	地元小中学校や地域機関との連携を深め、開かれた学校づくりをより充実させる必要がある。また、生徒会を中心に生徒を前面に出し、自発的に発案実施できるようなリーダー層の育成が課題である。	地域に開かれた学校の更なる充実	①授業公開週間や体育祭・文化祭を実施し、開かれた学校づくりを推進する。 ②生徒会活動を活性化させ、地域の行事に積極的に参加し、リーダーシップの養成を図る。 ③生徒会自らが発案企画し実施できるような生徒の意識づくりに努める。 ④学校説明会の内容や実施時期を検討し、参加者数を増加させる。 ⑤HPやメディアを積極的に活用し、地域・保護者へ学校の情報を積極的に発信する。	①授業公開・体育祭・文化祭の保護者等の来場者が増加したか ②地域との交流回数が増加したか。 ②学校行事は充実している75%以上(生徒アンケート)、85%以上(保護者アンケート) ③生徒が発案企画した取組の実施 ④学校説明会の中学生、保護者の参加者数の合計1,000名以上 ⑤HPの更新は、月20回以上、メディアへの情報提供 ⑤学校からの情報発信は満足している90%以上(保護者アンケート)			

学 校 関 係 者 評 価			
実施日	平成	年	月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等			